

## 初島住彦\* メジロホウズキの無毛型について

S. HATUSIMA\* : On a glabrous form of *Solanum biflorum*

メジロホウズキは南日本から南は印度およびマレーシアまで分布する植物で葉や茎の毛の多少の変異は日本では比較的少ないが熱帯ではかなりあるようで C. B. CLARKE は印度植物誌の中で ROXBURG 氏の採集品の中に無毛型のものがあることを述べている。最近名古屋大学の高木典雄氏から成田務氏が西表島で採られたメジロホウズキの無毛型を戴いたので少しこの仲間を調べたところ次のような結論に達したので報告したい。

メジロホウズキに近似の無毛型について記載されたものに比島産の *Solanum schizocalyx* MERR. と小笠原産の *S. boninense* NAKAI の2種がある。前者は以前九大で標本を見たことがあり、当時メジロホウズキと無毛の点以外では区別を見出しえなかった。また、M氏自身も比島頭花植物誌(1923)の中では本種はメジロホウズキの無毛の狭葉型と見なした方がよさそうだと述べている。次に *S. boninense* であるがこれは最初中井博士によって理学界に発表され後津山博士によって正式に発表されたもので氏はメジロホウズキに比し丈が高く、花梗が太く、萼歯が短いことを述べている。しかし筆者の所にある山本篤氏と津山尚氏採集の本種の花および実の標本4枚と各地産のメジロホウズキと比較して見たが以上の区別点はメジロホウズキの変化範囲内にはいるもので格別種を分ける程のものでないことが判った。すなわち、全株無毛である以外はメジロホウズキと何等区別のないことが判った。成田氏採集の西表島産のものはルーペで見ても1本の毛もみえない程の全くの無毛型でこれを小笠原産と比較して見たが区別点は見出すことは出来なかった。

以上の点から見て熱帯ではメジロホウズキの無毛型が往々現われることが判る。従って私はこの無毛型をメジロホウズキの1変種と考えたい。変種名としては只今のところ正式に発表されたものを見出し得ないので小泉博士が東大の標本上に手記されていた var. *glabrum* KOIDZ. を生かしたいと思う。

***Solanum biflorum* LOUR. var. *glabrum* KOIDZ. in sched. ex HATUSIMA, var. nov.**

***Solanum schizocalyx* MERR. in Philip. Journ. Sci. 5 (1910) Bot. 383 ; Enum. 3 (1923) 828, syn. nov.**

***Solanum boninense* NAKAI ex TUYAMA in Bot. Mag. Tokyo 50 (1936) 132, f. 27, syn. nov.**

A typo differt planta toto glaberrima.

**Hab.** Ryukyus : Along the Kuira River, Isl. Iriomote, T. NARITA, Aug. 6, 1968.

**Distr.** India ?, Philippines and the Bonins, a new addition to the flora of the Ryukyus.

\*鹿児島大学農学部 (Facult, Agric. Kagoshima Univ.)